

【会議内容（要旨）】

1 開会

生活・文化部長あいさつ

代理出席委員の自己紹介

2 議事

議題1 会長、副会長の選出

- ・ 会長...上野 達彦 会長を再任
- ・ 副会長...辻 淳子 委員を指名

議題2 自主防犯団体の活動について ～ 自主防犯ボランティアの高齢化等 ～

- ・ 平成22年12月末現在の防犯ボランティア団体の状況（全国）
団体数...44,508団体、構成員数...2,701,855人
60歳代以上の団体...24,519団体（構成比57.8%、前年比+4.7%）
（県では500超の団体、構成員30,000人超で高齢・固定化傾向は全国と同様）

3 概要説明 - 警察本部 -

県内の犯罪情勢等について（本年9月末）

- ・ 刑法犯認知件数...16,339件（昨年比-1,443件、-8.1%）
車上狙い、自転車盗、部品狙い、万引き等は減少、自動車盗、オートバイ盗等は増加
- ・ 振り込め詐欺の認知件数...53件、被害額約5,400万円
昨年比、認知件数で16件、被害額で約4,240万円の増加

暴力団の現状と暴力団排除条例について

- ・ 全国勢力...78,600人（指定暴力団は22、山口組、住吉会、稲川会で7割強）
- ・ 山口組は全国勢力の半分近くを占め、弘道会会長であった篠田建市が6代目組長
- ・ 「弘道会の山口組支配」の傾向が顕著、三重県は35団体、910人、すべてが山口組
- ・ 暴力団の特性は暴力性、集団性、利得性であり、「暴力団共生者」への対策が重要
- ・ 条例では人と金（資金源）の遮断に着目し、「社会VS暴力団」の構図を明らかにした。

4 講演等

「伊勢市自主防犯団体連絡会の立ち上げ等」

- 防犯パトロール隊みその及び新開地区防犯パトロール隊代表 中西 武男 氏 -
- 伊勢市総務部参事 危機管理課長 中村 龍平 氏 -

- ・ 伊勢警察署に登録されている「警察と自主防犯パトロール団体等との連絡会議」38団体のうち25団体で、本年9月に発足
- ・ 設立のきっかけは、上記連絡会議での横のつながりの必要性を痛感し、ネットワークによる団体の連携を密にし活動の充実を図る。
団体の資質向上と市民防犯意識の高揚に努める。
「安全」で「安心」なまちづくりに寄与する。

ことを目的に設立

- ・ 平成21年11月の連絡会議で「自主防犯団体連絡会」の趣旨説明を行い、その後、5回に亘る準備会を開催し、目的、規約、事業、自治会との関係等の検討を行った。

その他意見交換

- ・ 自主防犯活動は、「気楽に気長く無理をせず」が基本、関係者全員が皆さんに感謝をしている。
- ・ 大学生を中心としたヤングボランティアが、地域のボランティアと協働したり、小中学校を通じて勉強や防犯活動を推進している。また、現役世代によるボランティア活動の活性化に向け、商工会議所や労働組合等への協力・働きかけを行っており、今後の地域安全情報の提供・収集等双方向の関係構築に尽力している。
- ・ 高齢化はやむを得ない傾向であるが、子ども達は、高齢者に対し安心感を持って接している。学校・PTAとも大変な感謝をしているところで、活動内容の紹介等で、地域の皆さんとのコミュニティ作りに繋がっている。今後も大事にしていきたい。
- ・ 小中学生のボランティア経験・参加により、将来のボランティアとして成長が期待できる。また、PTAの方々からの感謝はボランティア各人の励み・推進力にもなっている。
- ・ PTAとしても、感謝と同時になるべく活動への参加を積極的にしていきたい。
- ・ 地域における防犯活動への支援として、防犯に関する専門的知識を有する防犯設備士の積極的な活用について配慮を願いたい。
- ・ スクールガードとしての組織率は小学校単位で100%近く、中学校単位で約半分、高校単位ではほとんど無い状況。学校側の取組としても、引き続きいろんな形で各種関係機関との連携を図りながら防犯活動を積極的に実施していきたい。
- ・ 様々な立場の団体がいろんな形で関わり、互いの連携が自然に行われていくことが防犯活動として望ましい。